

「第Ⅱ期 人工知能基本計画」（令和8年7月閣議決定）や「日本成長戦略」（令和8年7月閣議決定）等に基づき、バーティカルA I や
フィジカルA I の開発及び活用等を推進し、日本全体のA I トランスフォーメーション（A X）を実現。

1. A I 利活用の加速的推進「A I を使う」

政府・自治体でのA I の徹底した利活用	・政府主導によるガバメントA I 源内の整備・運用等（デジタル庁：事項要求） ほか
A I 利活用促進による社会課題解決、 新事業創出	・中小企業等を対象としたA X 促進、業務効率化やD X の推進支援 [新規]（経産省：約3,746億円） ・気象分野におけるA I 技術開発・利用基盤の整備 [新規]（国交省：約305億円） ・創薬・医療分野における研究開発プラットフォームの構築（AI for Health） [新規]（厚労省：約153億円＋事項要求） ・A I による防衛分野における意思決定の迅速化・高度化 [新規]（防衛省：事項要求） ほか

※その他、金額の特定はできないが、「データ戦略、更なるA I 利活用に向けた仕組みづくり」として、ロボティクス分野の生成AI基盤モデルの開発に向けたデータプラットフォーム
開発 [新規]（経産省）、領域横断的にデータを繋ぐA I ・データ連携基盤の構築 [新規]（内閣府）などの施策も実施

2. A I 開発力の戦略的強化「A I を創る」

日本の勝ち筋の追求	・AI for Scienceによる科学研究の革新（文科省：約3,789億円） ・A X 実現に向けたバーティカルA I の導入・開発利用の促進 [新規]（内閣府：約1,009億円） ・生成A I の社会実装を促進する計算資源の高度化に向けた研究開発（GENIAC）（経産省：事項要求） ほか
信頼できるA I 基盤モデル等の開発	・A I ロボット・フィジカルA I を見据えたマルチモーダル基盤モデルの開発（経産省：約8,964億円） ・A I の信頼性を評価する能動的評価基盤の研究開発・構築（総務省：約460億円） ほか
A I 研究開発・利用基盤の拡充・高度化	・A I ロボティクスの中核拠点（Center of Excellence）の創設 [新規]（経産省：約1,333億円） ・A I 社会を見据えた次世代情報通信基盤の研究開発等の推進（総務省：450億円） ほか

3. A I ガバナンスの主導「A I の信頼性を高める」

責任あるアジャイル・ガバナンスの実現	・政府全体で実施するサイバーセキュリティ対策パッケージ（Project YATA-Shield）の推進 [新規]（内閣官房：事項要求） ほか
--------------------	--

※その他、金額の特定はできないが、AISIにおける高性能A I の安全性・リスク評価等 [新規]（内閣府）などの施策も実施

4. A I 社会に向けた継続的変革「A I と協働する」

A I 時代の人材の育成・確保	・教職員向け研修や実証研究等、学校現場における安全かつ主体的なAI活用環境整備の実施（文科省：約884億円） ・実践的なA X実装人材を養成する大学・高等専門学校への支援 [新規]（文科省：約35億円） ・「マナビD X」の整備、地域企業協働プログラムの提供、D X 推進する実践人材の育成（経産省：約28億円） ほか
-----------------	---

※その他、金額の特定はできないが、大学等における産学官連携によるリ・スキリングプログラムの開発・提供 [新規]（文科省）、必要な職業スキルや知識などを習得するための
職業訓練（厚労省）などの施策も実施

（注1）A I 基本計画の4方針に関連する主な施策を記載。複数の方針に関係する場合は、最も関係が深い方針に分類。（注2）事業費の一部等、A I 関連予算額を抽出困難な施策は、予算総額に含まず。（注3）個々の事業の予算は四捨五入した額を記載。